

特集 地元企業



掲載企業

グローリー株式会社
コベルコシステム株式会社
株式会社サンエース
神栄株式会社
新明和工業株式会社
株式会社大真空
トーカロ株式会社
日工株式会社
古野電気株式会社
森合精機株式会社
大和工業株式会社

地元企業の「会社」がすごい！

	「技術力」と「サービス力」を海外へ	4
グローリー株式会社 海外事業本部 事業企画部 事業企画グループ グループマネージャー		
	『真面目でバカ正直』な仕事のやり方っていうのが好き	6
コベルコシステム株式会社 経営企画部 担当次長		
	自分と自分の周りの人々を幸せにすることこそ幸せ	8
株式会社サンエース 代表取締役社長		
	時代のニーズに対応し続けて百三十年	10
神栄株式会社 執行役員 物資本部 本部長		
	さらなる革新	12
新明和工業株式会社 航空機事業部民間機営業部部长		
	良好な職場環境が、社員の主体性を育み、会社を成長させる	14
株式会社大真空 第二技術部		
	飽くなき技術発展への情熱	16
トーカロ株式会社 製造本部 部長		
	「常にお客様第一」を根底に堅実でアットホームな風土であり続ける	18
日工株式会社 技術部部长		
	よりよい製品、より高い技術レベルへ	20
古野電気株式会社 技術研究所 研究部 ハードウェア・システム技術研究室 室長		
	ニーズを捉える次なる一手	22
森合精機株式会社 装置事業部 事業部長		
	製品安全基準 100% の必然性と技術開発	24
大和工業株式会社 大和軌道製造株式会社 技術部 設計課 主事 チームリーダー		

取材テーマ別 INDEX

成長性

新明和工業株式会社
株式会社大真空
トーカロ株式会社
森合精機株式会社

社風
風土

コベルコシステム株式会社
日工株式会社

技術力

古野電気株式会社
大和工業株式会社

理念
ビジョン

株式会社サンエース

グローバル性

神栄株式会社

グローバル性
成長性

グローリー株式会社

OB・OGからのメッセージ

	「ものづくり」への熱い思い	5
田中 大智さん 2014年 システム情報学研究科修了/開発本部 第二開発統括部 設計三部		
	絶対に求めている人がいる、だから頑張れる	7
北林 慧一さん 2014年 システム情報学研究科修了/システム事業部 SO 本部 第2サービス部神鉄システム室		
	変わっているからこそ	9
今瀬 将太さん 2015年 経済学部卒業		
	思い切ってやりたいことをやれる環境	11
藤本 佳奈子さん 2010年 法学部卒業/食品部 東京営業グループ		
	分析と予測、そして価値の付加	13
内山 尊礼さん 2006年 経営学部卒業/航空機事業部経理部経理課 原価チーム		
	表立った成果だけでなく、長期的な視点を持って、会社の未来を分析する	15
森島 ●●さん ●●●●年 ●●●●学部卒業/経営企画室		
	不断の思考と独自の行動スタイルを活かして	17
檜山 耕作さん 1990年 工学部中退/製造本部 部長		
	「今後の可能性を広げるために、私を一番大変な部署に配属してください。」	19
岩崎 研太さん 2015年 海事科学部卒業/生産管理室		
	見えないものも伝える。古野電気の入り口としての使命。	21
吉田 皓志さん 2010年 工学部卒業/人事総務部 人材開発課		
	技術者としての「こだわり」と仕事に打ち込める「環境」	23
雪島 良太さん 2015年 工学部卒業/装置事業部		
	自分を高めたいと思える環境	25
土江 綾さん 2015年 経営学部卒業/総務部 人事課		

●この「地元企業特集」は、神戸大学生が取材を行い、記事を執筆しました。

取材
スタッフ

小山 大貴 経済学研究科 上野 弘樹 国際文化学部 五十嵐流光 工学部 吉村 弘亮 経済学部
高橋 篤史 法学部 濱口 彰浩 経済学部 小松 剛士 工学研究科 上西 宏治 工学部
須藤 理江 国際協力研究科



グローリー株式会社

海外事業本部 事業企画部 事業企画グループ
グループマネージャー 岸本 和也さん

通貨処理機の開発・製造・販売・メンテナンスを手掛けるグローリー株式会社の歴史は長く、創業は1918年。1950年には国産初となる硬貨計数機を開発している。現在は、主力の通貨処理機以外にもコアテクノロジーである認識・識別技術を応用した顔認証システムを利用し、セキュリティ技術の開発にも力を入れている。そして、グローリーはグローバル戦略を今後の成長戦略の中での重要な要素と考えている。今回は、その重要なグローバル戦略を中心となって進める海外事業企画グループのマネージャーで、ご本人も神戸大学OBの岸本和也さんにお話を伺った。

グローリーが現在、世界20カ国以上の国に販売拠点をもち、100カ国以上の国と地域に販売・アフターサービス網を広げているのは、「販売した製品のメンテナンスを極力自社で行うことによって、海外のお客様の満足度をより高めるため」と岸本さん。そして、「技術力の高さに加え、お客様に対するサービス力もグローリーの強みです。」と語る。

グローリーのグローバル戦略の一つとして、海外企業のM&Aがある。海外企業の買収は、事業拡大に必要な機能を獲得する上で有効な手段の一つ。岸本さんご自身は、あるM&Aのプロジェクトメンバーに選ばれたことをきっかけに経営企画部から海外事業部に移られたそう。そんな岸本さんが考える海外展開の鍵は、規模が急速に拡大する一方で、競争が激しい中国の市場。グローリーの特徴をどのように活かしていくかが課題だという。

今回の取材を通して、グローリーは「技術力の高さ」はもちろんのこと、「お客様へのサービス」という面においても非常に優れた会社だということが分かった。それと同時に、自社の成長のために、どんな厳しい環境にも進出しようとするグローリーの力強さを感じた。

「技術力」と「サービス力」を海外へ

取材テーマ



Message from OB/OG

先輩からのメッセージ

取材テーマ：仕事のやりがい



田中 大智さん

2014年 システム情報学研究科
修了

グローリー株式会社
開発本部 第二開発統括部
設計三部

「ものづくり」への熱い想い

ものづくりがしたい……。その想いからグローリーに入社して2年目となった田中大智さんは、開発本部第二開発統括部設計三部に所属し、金融機関の窓口担当者が現金処理に利用する「窓口用紙幣硬貨入金機」に組み込むソフトウェアの開発に携わっている。

入社間もない頃、担当する製品が普段目にするのが少ない物であったため、その仕様や使い方を覚えるのに苦労したそうだが、今では開発に自分自身の考えを盛り込めるようになり、「直接携わった製品が正常に稼働したときには、この仕事のやりがいを感じる」と田中さん。

就職活動の際「ビジネスをグローバル展開している会社」「自分が興味を持てる製品を作っている会社」という視点で企業を探し、出会ったグローリー。そのグローリーに田中さんが入社してまず感じたことは、開発に関わる社員が非常にまじめで妥協しないということ。自主的な勉強会が頻繁に開かれるなど、社員は皆、技術開発に対し熱い想いを持っている。「この社員の姿勢こそがグローリーの技術力の高さを支えている」と田中さんは語っていた。

入社してからの自分自身の変化として、田中さんは、街中で自社製品が目につくようになったことを挙げられた。そして、他社製品の仕組みも気になると言う。そんな田中さんの10年後の目標は、「新しい製品を立ち上げたときにリーダーとなって、製品仕様などの最終決定を行う」ということ。今回の取材を通して、田中さんご自身のまじめさとのづくりに対する熱い想いも感じ、社内に田中さんのような社員が多く在籍している事が、グローリーの強みであると確信した。

グローリー株式会社

所在地 〒670-8567 兵庫県姫路市下手野 1-3-1

事業内容 通貨処理機、自動販売機などの開発・製造・販売・メンテナンス

創業年 1918年3月

資本金 128億9,200万円

従業員数 3,262名

●神戸大学生へのメッセージ

グローリーは通貨処理機(両替機・つり銭機など)の分野におけるリーディングカンパニーです。当社の製品は、金融機関をはじめ、駅・スーパーマーケット・病院など、身近なところで利用されています。また、世界100カ国以上で活躍しています。私たちと一緒に「世界のトップブランド」を目指しませんか？

●ポイントPR

グローリーは通貨処理機(両替機・つり銭機など)のパイオニアとして、創業より様々な国産第一号機を世に送り出してきました。お客さまの多様なニーズに応え、間断なく新しい製品をつくりたい・不可能に挑戦する「求める心」と社員「みんなの力」を結集し、セキュア(安心・確実)な社会の発展に貢献します。



ホームページはコチラ! ▶ <http://www.glory.co.jp/saiyo/>

【執筆者/経済学研究科 小山 大貴】



コベルコシステム株式会社

経営企画部
担当次長 **山口 美紀**さん

一目見た印象は「仕事のデキる人」。どう話せばいいんだろうと緊張する私をよそに、山口さんは笑顔で職場の雰囲気について話す。「みんなお互いのこと、『さん』付けで呼んでるかな。社長のことも『さん』付けで…いいんだよね(笑)?」にこやかに話してくれたその姿は、実に楽しげだった。

コベルコシステムは、大手鉄鋼メーカー神戸製鋼所から分社し1987年に設立された、企業向けITソリューションやITサービスを提供する会社だ。システムの納品においては、お客様の思いをどれほど汲み取れるかが勝負になってくる。独りよがりなものになってはいけないので、お客様が何を求めているのか、きちんと踏まえた設計をすることがとても大切になる。だからこそ「SEにはコミュニケーション力が必要」だと山口さんという。「学生さんにまずお伝えしたいのは『SEはずっと画面に張り付いている仕事じゃない』ってことです」。それを裏付けるように、新入社員に一番伝えたいことを尋ねられると「会社はあなたに対して開かれている」こと

を挙げてくれた。社内にはいろんな人がいて、いろんな話をしてくれる。自分から積極的にアクセスしてほしいと語った。

自社の気質を訊かれて、まずその口から飛び出した言葉は『真面目』だった。「お客様の要望にきっちり応える」ための、強いチームワークも当社の特徴だそう。根底にあるものは「何事にも真面目に、真摯に取り組む」こと。山口さん自身はそんな自分たちの仕事ぶりを『バカ正直で真面目』と表現する。やりきる、途中で投げない、諦めない。一緒に仕事をする同僚のことになると、なんだか「戦友」のように話をする山口さん。『バカ正直で真面目』だからといって、堅苦しいわけではなく、なんとなく温かみがあるのが印象的だった。

新入社員の多くが入社理由に「社風の良さ」を挙げるコベルコシステム。それは風通しの良い環境の中、『バカ正直で真面目』に働いてきた山口さんとその「戦友」によって支えられ、これからも続いていく。

『真面目でバカ正直』な仕事のやり方っていいのが好き

取材テーマ



Message from OB/OC

先輩からのメッセージ

取材テーマ：仕事のやりがい



北林 慧一さん

2014年 システム情報学研究科
修了

コベルコシステム株式会社
システム事業部 SO 本部
第2 サービス部 神鉄システム室

絶対に求めている人がいる、だから頑張れる

コベルコシステムでシステム開発や設計を行っている北林さんは、入社してもうすぐ三年目を迎える。現在は神戸製鋼所の製鉄工場でシステム作りに携わる。出荷前、物流の最終窓口をシステム面で支える仕事だ。

「製鉄所の人間になってきてるっていう感じはすごくします」。システムエンジニアの言葉としては意外だが、開発担当としてお客様と近い距離感で仕事をしているという、北林さんらしい言葉だ。働く上で大事にしているのは「お客様との距離感」。自分の作ったシステムについて、直接話をするからこそ「実際自分のやっていることが間違いなく役に立つもの」だと実感するという。距離感を大切にする価値観は就職の際もぶれていない。「絶対に求めている人がいてシステム開発をするっていうのが就活の大前提だった」。自社のやり方は「お客様の意見ありきの仕事」というイメージが強く、そこが大きな魅力だったという。学生時代のアルバイトの経験から「自分のやったことに対してリアクションがもらえる環境はとても大事だと思っていた」と話す北林さん。働く上での「視座」がしっかりと確立されている。これは就職活動をする大学生にとっても重要命題だ。

インタビュー終盤、北林さんが何気なく言ったことが忘れられない。「簡単にできてしまうと、それはそれでお客さんに対して思い入れがないような気がする」。北林さんの仕事にかける想いをそのまま表したような言葉だ。納得のいくものを作って、お客様に見てもらえる、だから頑張れる。IT業界の取材でこんなにも強く、モノづくりの醍醐味を感じることにとなると正直思っていなかった。「自分の納得がいくようにできる環境です。自分がやり遂げたことにリアクションが欲しい人にはうってつけの職場だと思います」。そんな北林さんの働き方がちょっと羨ましくなった。

コベルコシステム株式会社

所在地 〒657-0845 兵庫県神戸市灘区岩屋中町 4-2-7
シマブンビル 11 階

事業内容 ビジネスシステムの設計・開発・保守
IT インフラの設計・構築・運用

創業年 1987年7月

資本金 4億円

従業員数 1,059名



ITサービス・ソフトウェア

●神戸大学生へのメッセージ

約70名の神戸大学OBOGが在籍！コベルコシステムは神戸製鋼所のIT部門をルーツにした神戸最大のIT企業です。神戸製鋼所の「ものづくり」を支える高度な業務知識と、IBMの最先端の技術力を融合させ、製造業はもちろん金融業・流通業と幅広いフィールドで事業展開してゆきます。

●ポイントPR

お客様の業務の自動化や効率化を考え、最適なITシステムを提案・構築します。お客様が抱えている様々な問題や課題をヒアリングすることから始まり、最先端のシステム開発にITのプロとして携わります。システムが稼働し、お客様から評価をいただいた時は、何ごとにも代えられない達成感を味わうことができます。

ホームページはコチラ！ ▶ <http://www.kobelcosys.co.jp/recruit/>

【執筆者/国際文化学部 上野 弘樹】



株式会社サンエース

代表取締役社長 中山 勇人さん

株式会社サンエース代表取締役社長の中山勇人氏は「会社の発展は手段で、自己の成長が目的。自己の成長は幸せ実現の道だ。」と語った。

ここで言う幸せとは、自分とその周りの人の幸せのことである。会社の発展を手段として社員が自己成長し、その成長により周りの人と自分が幸せになるということである。この周りの人とは誰のことであるのか。これは広い範囲に及ぶものであった。家族や友人、社員、お客様、取引先、ひいては同業他社、社会全体までも指していた。

その同業他社の幸せの例として、「トップネット」という団体の発足が挙げられる。これは本来競合する同業企業が連携し、経営・人材・情報を相互に高めようという団体で、同社の牽引により加盟している企業全体が恩恵を受け、成果をあげている。

お客様、取引先の幸せを願う姿勢として、「お客様第一」の精神を経営理念のトップに掲げている。その裏付けとして、『平成26年度おもてなし経営企業選』で経済産業省から全国でわずか22の企業の一つに選出された。

「社員の意欲と能力を最大限に引き出し、地域・社会との関わりを大切にしながら、顧客に対して高付加価値化・差別化サービスを提供している」という大きな外的評価を受けている。なによりも、同社が創業以来66年にわたって黒字経営しているということが「お客様第一」の精神を徹底し評価されつづけてきた結果である。

こうした考えと実績は基本精神の「皆揃って幸せになりたい」に結びつく。

なぜそのように考え行動されるのかと伺うと「自分だけ儲けたら良いという会社は生き残れない。世の中の為になる提供を継続できる企業が永続企業として残っていく。会社に関わる人たちが皆が幸せでないと続かない。例えばリーマンショックのように、人間の欲は弾ける。これからの時代はそうではない。だから当社のような企業が世の中に認められるようになってきたのだと思う。」と同氏は強く語った。より一層同社が評価される確信と展望、誇りを感じた。

取材テーマ



自分と自分の周りの人々を 幸せにすることこそ幸せ

Message from OB/OC

先輩からのメッセージ

取材テーマ：自分が成長した経験・達成感を得た経験



今瀬 将太さん

2015年 経済学部卒業

株式会社サンエース

変わっているからこそ

「変わっている」2015年に経済学部を卒業、入社した今瀬将太氏は言う。

業務は営業としてリフォームプランを立案、検討、施工管理をするのだが、入社後わずか約半年で現場の予定や人員などの管理を一人で任された。聞くと取材日の前週にも直接お客様に対し建物外壁に関するセミナーを同氏が運営した。知識も経験もまだ未熟な新入社員に、責任ある仕事を大胆に任せることに「変わっている」と感じたという。

苦労や不安はなかったのかと伺うと、「当然ある、しかし、だからそれに伴って達成感がある。」とのことだ。新入社員がすぐにこうした経験を積めることはそうあることではないだろう。しかも、そのセミナーで受講者の方から分かりやすいと言われ、見積りの依頼まで得ることができた。

同氏は学生時代から計画を立てることが苦手であり、また、入社半年程度で当然専門的な知識にも自信がなかった。それでも大きい経験となったと現在語るのには先輩社員の支えがあったと言う。フォローや励まし、負担が重くなりすぎないような配慮、つらいといった心境への理解を得、自分で考える機会も与えてくれ、とにかく頼りになった。物事を整理してから聞く頼り方まで学ばせてもらった、と言う。それにより同氏は今、まず行動することの重要性を感じ、新たな経験を得たいという前向きな姿勢で、生の現場での経験を次々に吸収している。素晴らしく良好な循環だ。

就職活動の際、社長自らが各種説明会に参加し、事業の話よりも、理念やなぜ働くかについて説明しているのを聞いたそう。これも「変わっている」と感じた点の一つである。大企業ではないからこそ成長できそう、それに加え社長の話す理念や考え方、まとまりのある良いチームとしての姿が見えた。そして理念に共感し志望することを決めたそう。

理念に「お客様第一」がある。これには考えさせられるところが多分にあると言う。大先輩の方がお得意先に伺ったとき、簡単な作業内容だったため、費用は取らず工具を貸し出し無料で対応した。利益を考えたら有り得ないことだが、お客様を第一に考え何がベストかを考えた結果だ。これも「変わっている」。

こうして日々「お客様第一」を痛感し、先輩方の目配りや心配りの行き届いた中で経験を積み、自己成長を遂げることができている、と嬉しそうに語る今瀬氏がとても印象的だった。

株式会社サンエース

所在地 〒658-0054 神戸市東灘区御影中町 2丁目 1-4

事業内容 オートサプライヤー事業部：自動車補修用塗料、工具、副資材のコンサルティング営業を行う専門商社
リファイン事業部：戸建・マンションに最適な増改築プランの提案・企画・施工など暮らしを創造するリフォーム部門

創業年 1949年1月1日

資本金 4,800万円

従業員数 125名

●神戸大学生へのメッセージ

神戸大学の先輩が活躍しております！当社は抜群の経営安定を誇る、神戸本社の業界No.1企業です。「人に喜ばれる仕事がしたい」その為に「成長したい」と考える人が当社には集まっています。自己成長のための研修制度も充実。あなたの個性を発揮できる職場で一緒に働きませんか？

●ポイントPR

経済産業省平成26年度「おもてなし経営企業選」選出企業！創業以来66年間連続黒字、自己資本比率84.7%の経営安定は基本精神「皆揃って幸せになりたい」のもと当社に関わる全ての【人】を大切に理念経営を行ってきた結果。「お客様第一」「会社の繁栄＝社員の幸せ」「事業は人なり」を理念として掲げております。



商社

ホームページはコチラ！ ▶ <http://www.sunace-net.com/>

【執筆者/工学部 五十嵐 流光】



神栄株式会社

執行役員 物資本部
本部長 **中川 太郎**さん

神栄は、創業128年を誇る老舗の総合商社である。もともとは国内で生糸を扱う問屋として発足したが、日本の生糸は非常に品質が良く海外で人気があったため、海外企業との取引も開始した。色々な海外業者とコネクションができ、生糸を売る際に「他にこのようなものが欲しい」というニーズに応じて色々なモノを輸出したり生産したりする中で、現在の四本柱である繊維・食品・物資・電子という部門ができた。

総合商社ということで、海外とのやり取りはとても活発だ。今回お話を伺った物資本部長の中川太郎さんは、今までに27か国を訪れた経験があるそうだ。若い社員であっても事業性のあるチャンスを見つけてくれば、海外に出られる土壤があると中川さん。インタビュー中に近くの部屋で英語の会話が聞こえてきたことが印象的であった。

神栄では上述の4つの主幹事業から、それに派生する新しいことに次々に挑戦している。インターネットを通じて世界中のものを自由に買えるようになった現在では、商社

に求められる役割も昔とは変わってきた。例えば、神栄では以前のように「モノ」を売る他に、「コト」を輸出するようになった。世界有数の地震国である日本は地質や地盤を調査し、地震に備える技術が発達している。神栄は、そのような技術に対する海外からのニーズをくみ取り、調査会社と共に海外を訪れて調査を行い、地震対策の提案やハザードマップを提供するなどして対価を得るという形のビジネスを新たに始めている。その背景には、神栄自体が被災した阪神淡路大震災の経験がある。

「大手商社のような資金力がないので、頭をひねって考え抜いた結果、現在のような形のビジネスが生まれている」と中川さん。創業以来128年の歴史の中で、時代の変化とともに変わるニーズをつかみ、対応してきた神栄は、今後もさらに発展していく企業であると感じた。

時代のニーズに対応し続けて百三十年

取材テーマ



Message from OB/OC

先輩からのメッセージ

取材テーマ：仕事のやりがい



藤本 佳奈子さん

2010年 法学部卒業

神栄株式会社
食品部 東京営業グループ

思い切ってやりたいことをやれる環境

入社時から食品部に配属され、現在、東京営業グループで冷凍食品の営業・販売を担当されている藤本さん。そのお仕事の内容と、やりがいについてお話を伺った。

神栄食品部では、冷凍野菜、フライなどの冷凍調理品、魚の切り身などの冷凍水産加工品を扱っている。藤本さんは、それらの食品の営業を担当されている。

入社時に、身近で、形のあるものに携わりたいという思いから食品部を希望した藤本さんは、現在のお仕事のやりがいについて、「やりたいことをやらせてもらえること」とおっしゃった。大手商社とは違って、同じ営業でも色々なことができる。例えば仕入れや製造に直接提案することも、店頭に行って販売に関わることも自由にできる。仕事の範囲は「仕入」と「営業」というように分かれてはいるが、仕入が、製造業者から紹介された製品を営業に伝えたり、逆に営業が客先のニーズを汲み上げ、仕入に伝え、それに合った商品を仕入れてもらうこともあるそうだ。商品開発に関しても、アイデアを思い付いたものが年次に関係なくそれを手掛け、色々なニーズを商品化しているという。「やりたい」という声を上げればやらせてもらえる環境がある。たとえミスをしてでも皆がトライアンドエラーの繰り返しで成長するということを理解しているので失敗を恐れる必要がない。そういう意味で「自由な」会社であると、藤本さんはおっしゃった。

藤本さんは、入社してすぐに担当顧客を持ち、中国出張も経験されている。若い時から広い裁量範囲を与えてもらえる神栄は、創業はるか昔でありながらベンチャー企業のような環境があるという印象を受けた。「東京での営業は、まだまだこれから。早く、誰もが知っているような大手の取引先に自社の商品を並べたい」と今後の展望を語ってくださった藤本さん。営業として働くことの、そして神栄で働くことの魅力が、強く伝わってきた。

神栄株式会社

所在地	〒651-0178 神戸市中央区京町 77 番地の 1
事業内容	繊維・食品・物資関連の輸出入・卸売業および電子機器(空気質計測センサ・衝撃試験機)、コンデンサの開発・製造・販売
創業年	1887年5月24日
資本金	19億8,000万円
従業員数	624名

●神戸大学生へのメッセージ

神栄では、誰もが積極的に提案できる雰囲気があり、若手にも裁量の大きな仕事が任せられます。人事研修やOJTなどの基本的な研修は勿論、やる気のある人や努力する人に対して、重要な仕事や幅広い業務を任せたりと会社としても、個人としても、大きな成長が望める組織づくりを推進しています。

●ポイントPR

日中国交正常化以前より中国から“友好商社”の指定を受けビジネスを拡大し、“ものづくり”にこだわりぬく強みを持ち、お客様との信頼関係を築いてきました。私たちはこれからも、新たな市場や事業へ挑戦し続けていきます。



商社

ホームページはコチラ! ▶ <http://www.shinyei.co.jp/recruit/shinsotsu/>

【執筆者/経済学部 吉村 弘亮】



新明和工業株式会社

航空機事業部民間機営業部部长 石崎 義教さん

航空機が神戸で作られているということを知っている人、その中でも体験として知っている人がどのくらいいるだろうか。本取材の際、工場を見学させていただいたのだが、あの壮大で壮観な航空機が神戸の地で製造されていることを目の当たりにした。その新明和工業の携わる航空機は、防衛省で運用される救難飛行艇を製造・補修する飛行艇部門、そして民間航空機部門に分かれている。今回お話をいただいた石崎義教氏は民間航空機部門の営業に所属しておられる。

航空機業界の未来は明るい。と言うのも医療と並んで航空が政府に重点分野として指定され、国産旅客機MRJの初飛行にも見られるように、航空機部門のさらなる成長の気運は非常に高い。具体的数値として、先20年で業界規模が倍になるという見通しが強いとのことだ。昨今、工業全体で新興国の安価な製品の脅威が叫ばれているが、航空機の特質上規制が多いため、それが参入障壁となり、目下、先発の優位性が脅かされることはない。

その過去はどのようなものであったのだろうか。新明和工業はこれまで堅実な成長を遂げてきたと石崎氏は言う。戦前戦時中の列強諸国に追いつけ追い越せの力強く成長して

いた状況から、戦後はアメリカから飛行機の製造が禁止され成長を止められた状況になった。当時川西航空機であった同社は特装車やオートバイを含む工業製品の製造で危機を脱した。後に規制が解かれ第二次世界大戦後初めて日本のメーカーが開発した旅客機YS-11の製造に参画した。80年代後半からはボーイングといった民間機事業に参画、事業規模がどんどんと拡大した。こうした逆境からの復興は革新的であり、その姿勢は国際化へ向かっている。

新明和工業では昨年11月からグローバル人材育成の研修が始められた。自他薦で15名、海外の人と関わる上でのマインドセットから行われた。石崎氏は「初めて行う手探りの状態で不安や懸念があったが、一同能動的であった。すごく手応えを感じた。」と言う。さらに、「成長はただの通過点であり成長しなければ存続できない、グローバル人材はその成長をするための鍵である。結局は人で、人が変われば風土や文化、ルールなど様々なものが変わる。企業の成長＝人の成長の土壌だ。」と語る。

企業が人を、人が企業を成長させ、堅実に革新的に、この追い風の気運で更なる高みへ新明和工業は羽ばたいてゆくだろう。

さらなる革新

取材テーマ

成長性

Message from OB/OG

先輩からのメッセージ

取材テーマ：仕事のやりがい



内山 尊礼さん

2006年 経営学部卒業

新明和工業株式会社
航空機事業部経理部経理課
原価チーム

分析と予測、そして価値の付加

内山尊礼氏は原価計算をはじめとして様々な経理業務に携わる。年度の予算を作り、月を単位として決算をし、損益等を予算と比較して改善手段を講じてゆく。終わりはなく次から次へという連続的なものである。また、単純に原価や損益がいくらかということだけでなく、扱う製品そのものや契約内容などの理解が必要とされる。固定資産の管理や設備投資計画作成の業務では他部署の方々、監査業務では防衛省や会計士の方々など内外問わず様々な人と関わる機会も多い。会社の経営を直接左右するため及ぼす影響も大きい。

そうした責任があり労も少なくないであろう業務の中で、やりがいとを感じるものの一つとして、「分析予想」が語られた。「いかに分析し予測を立てることができるかということを重要視している。データをまとめ示すだけの経理ではなく、いかに可能性を提示できるかが活躍の場だ。それができるかどうかで会社と自分自身が生き残れるかどうかが決まる。」と言う。革新し成長し続けなければならないという心意気の表れだ。例として古くからある企業だからこそ複雑化されてしまったシステムを改新して、体系を整備し、機械に集計作業を行わせる。そして、人間が分析・調査・予測・対策に十分な時間が取れるようにしようとしていることが挙げられた。同氏が充実していると感じる場面でもあるという。責任や影響が大きく、会社に強く関わるができるからこそ、やりがいや充実感を得ているのだろう。

内山氏は今後、自分のアイディアや意見の反映で会社に貢献し導いていけるようになりたい、いつまでも会社が存続し発展するようにしていきたいと言う。そのためには付加価値作業をどれだけできるかが肝要だと考えている。「単なる数字の集計・加工作業だけでなくその先に何をするか、自ら工場に出向き現場の方の話を伺うというような、定常的な経理業務以外に何を続けていけるかが大事だ。」と語る。明確な意思や自覚を胸に内山氏は、会社に、自分に、価値を付加していく。

新明和工業株式会社

所在地 〒665-8550 兵庫県宝塚市新明和町 1-1

事業内容 【航空機事業】水陸両用飛行艇、航空機部品
【特装車事業】特装車
【パーキングシステム事業】
機械式駐車設備、航空旅客搭乗橋
【流体事業】流体関連機器
【産機システム事業】産業機器、環境システム

創業年 1949年11月5日

資本金 159億8,196万円

従業員数 2,883名

●神戸大学生へのメッセージ

【社会インフラを支えるShinMaywa】
当社の製品群は「輸送用機器製造業」という枠を超え、日々の生活を円滑にする新明和グループの製品が街の様々な場所で活躍しています。社会基盤を支えることで社会に貢献する仕事です。一緒に明日の街づくりをしませんか？

●ポイントPR

【時代の変化に対応した“モノづくり”】
新明和工業は、特装車やマンホールポンプ、飛行艇などの分野で国内トップクラスのシェアを誇っており、会社設立以来、蓄積した技術・ノウハウを大切に活かしながらも、新技術・新製品への追求を続け、さらなる発展を目指し日々、チャレンジをしています。



ホームページはコチラ！ ▶ <http://www.shinmaywa.co.jp/>

【執筆者/工学部 五十嵐 流光】



株式会社大真空

第二技術部 坂本 ●●さん

大真空の製品開発そのものに携わる、神戸大学OBで入社4年目の坂本さん。技術部門にてTCXOの開発を行うことが現在の主な仕事である。TCXOとはtemperature compensated crystal oscillatorの略称で、温度補償水晶発振器を指す。水晶の周波数は温度に依存しているが、温度が変わっても一定の周波数を保てる機能を持つのがこの製品の特徴。おもにスマートフォンやカーナビに内蔵されており、私たちにとって身近なものでもある。

技術部門というと、研究対象をひとつに絞って、それをじっくり掘り下げるといったイメージが先行するが実際はそうではない。顧客のニーズも多様にあり、常にそれらに耳を傾け、限られた時間やコスト等のなかでやりくりしていく。「360度を見て回らなければならないのは大変だが、うまくいったものを、うまくできたときのやりがいはいっぱいある」と、坂本さん。そして、「大真空は、規模の大きい会社というわけではないが、そのぶん社員同士の距離が近くて、『人』がとてもしっかりと話す。この風通しの良い環境が、社員の成長と企業の成長の両方に役立っているようだ。

自分の考えをはっきり言える環境が整っているのは、大真空の強みだ。坂本さんは若手だが、すでに自分の意見を通してもらった経験もあるという。仮に意見がそのまま取り入れられなかったとしても、頭ごなしに否定されることはない。大真空では上層部や同僚と、率直に意見交換を行える場がしっかりと用意されている。製造現場であっても、様々な人とすぐに知り合え、コミュニケーションをとることができる。これは昔から続いている雰囲気であり、この長年に渡って培われた良好な環境が、今後の会社の成長にますます貢献していくと思われる。

大真空では毎年成果を出した社員やチームに対し表彰制度を設けており、坂本さんは2015年11月に功労賞を受賞した。この経験で大きな達成感を得て、今後さらに成果を出していきたいと思うようになったという。最後に、「社会人になると直属の上司だけではなく、いろいろな人の意見を取り入れて、自分で考えることが必要になる」と語ってくれた。大真空の成長の核は、風通しの良い環境と、社員の主体性にあるようだ。

良好な職場環境が、 社員の主体性を育み、 会社を成長させる

取材テーマ

成長性

Message from OB/OC

先輩からのメッセージ

取材テーマ：やりがいと成長性



森島 ●●さん
●●●●年 ●●●●学部卒業

株式会社大真空
経営企画室

表立った成果だけでなく、長期的な視点を持って、会社の未来を分析する

身の回りにある、さまざまな電子機器…その多くに組み込まれている水晶デバイスは、高度情報化社会を支えている重要な電子部品である。大真空ではその開発・販売を行っている。

今回取材に伺った森島さんは入社3年目で、経営企画室に所属している。企業には様々な部署が存在するが、それらの意思疎通がスムーズに行われなければ、組織としては機能しない。各部署間の調整を行い、その連携を図るのが経営企画室だ。売上、利益など様々な数的な情報を分析し、今後の経営方針や計画の立案に携わるといふ企業の中核を担う部署で、森島さんは奮闘している。

方針や計画に対して、経営企画室は、上層部の立場、営業部門の立場、製造部門の立場など、複数の視点を常に考慮する必要がある。「数字は簡単に変えられるが、その基になるのは、もともとの方針や計画であり、それをいかに各部署の人に理解してもらうかが重要だ」と森島さん。会社全体としてのバランスが取れていなければ、各部署の活動効果は薄くなってしまふ。ときに意見の違いなどの板挟みに悩むこともあるが、それをクリアすることがやりがいに繋がると話す。

森島さんは、自社の「若返り」を今後のビジョンとしている。自身も含め、これからは若手がどんどん意見を発信していくことが会社の成長にとって重要だと語る。現在でも大真空は、上層部とのフランクな意思疎通が可能な社風であり、それを活かして今後の成長に繋がたいと話す。

経営企画室は営業部門などに比べて、はっきりとした成果は見えにくい。ただし、長期的な視点に立ち、計画立案を通して企業の将来に携わっている責任感を肌で感じられる部署である。その経営企画室で地道にコツコツ仕事をし、会社の未来に貢献していきたいという森島さんから、「就活生には、部署や職種の名前やイメージにこだわらず、広く会社を見てほしい」という、ご自身の経験に基づくメッセージを頂いた。

株式会社大真空

所在地 〒675-0194 兵庫県加古川市平岡町新在家1389

事業内容 『水晶デバイス』を中心とした電子部品の、研究開発、製造、販売を行っています。世界中に製品を供給しており、エレクトロニクス機器を支える縁の下力持ちです。

創業年 1959年11月3日

資本金 193億4,488万円

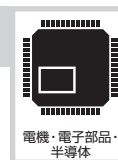
従業員数 696名

●神戸大学生へのメッセージ

『水晶デバイス』という言葉はあまり聞いたことが無いかもしれませんね。しかし、スマートフォンもパソコンも自動車も『水晶デバイス』が無ければ動きません。『水晶デバイス』は高度情報化社会を支える《鍵》であり、弊社はその《鍵》を世界中に供給しているグローバルメーカーです。

●ポイントPR

『水晶デバイス』は、あらゆる電子機器に組み込まれており、機器内部を構成する部品間の情報伝達を行うための基準となる、規則正しい安定した信号を作り出す役割を担っています。近年では、省エネ関連分野、ロボット産業、スマートフォンやタブレットPCなどで、更なる『水晶デバイス』の需要が期待されています。



電機・電子部品・半導体

ホームページはコチラ! ▶ <http://www.kds.info/>



トーカロ株式会社

製造本部
部長 檜山 耕作さん

「表面改質」。この特殊な技術で日本をリードし、世界で活躍する企業が神戸にあることをご存じだろうか。トーカロ株式会社は溶射加工を核とする表面処理加工の総合メーカーであり、その技術はスマートフォンなど身近なモノから医療、果ては航空機など非常に多岐にわたる分野で利用されている。アジア地域を中心に4ヵ国に子会社を設立するなど、国内外を問わず発展を続けるトーカロ。その成長を支えるものとは何か。製造本部付専門部長である檜山耕作さんから「人」と「企業」、2つの面からお話を伺った。

まず人の成長に関して、檜山さんは「企業は人だ」と語り、社員の成長なくして企業の発展は望めないと切り切る。そこで社員がとる行動に対し安易に指示を与えるのではなく、一つひとつの行動に思考を巡らすよう促すことを心掛けていると言う。一方で社員が失敗しそうであればフィードバックを欠かさない。経験・知識の両面で社員の自立を

図りながら、時に引っ張る姿勢が人の成長を重んじる考えを映し出している。また社内でのコミュニケーションが立場の上下を超えて活発であること、他の企業体と比較して社内の声が経営に反映されやすく風通しの良い、というトーカロ特有の風土も人の成長に一役買っている。

企業の成長には「人と自然豊かな未来へ」の目標の下、技術向上を図る姿勢、創業以来受け継がれる新たなフィールドを切り拓く社風が基礎にあると檜山さんは続ける。食欲に利益を追求すると同時に豊かな未来を築くため、常に新技術の開発に取り組む。そんな飽くなき技術発展への情熱こそがトーカロが発展を続ける原動力なのだと、私は取材を通じて強く感じた。

飽くなき技術発展への情熱

取材テーマ

成長性

Message from OB/OC

先輩からのメッセージ

取材テーマ：自分が成長した経験・達成感を得た経験



檜山 耕作さん

1990年 工学部中退

トーカロ株式会社
製造本部 部長

不断の思考と独自の行動スタイルを活かして

自分自身の成長は、考えることを切り離して語ることはできないと檜山さんは語る。入社当初、トーカロは表面改質の分野で拡大を遂げるまさに発展途上であり、社員を育成するシステムが十分に整備されてはいなかった。知識・経験が浅いまま住み慣れた兵庫県を離れての営業。トーカロという社名も知られていない街で売り込みを掛けては断られることの繰り返し。「いかに自社技術売り込むか、新技術を生み出すために何が必要か」。新規開拓に追われる毎日の中で、自然と頭を使って考え続ける習慣が身についたという。当然、生みの苦しみはある。しかし、不断の思考を重ねた苦勞の末に、競合相手がいない唯一無二の領域を切り開けた時は、喜びと共に自らの成長を実感すると檜山さんは言う。

さらに、自分にとって仕事における最良のスタイルを確立することも成長のカギだそう。曰く、「万人に通ずる‘ベスト’は存在しない」。檜山さん自身、上に立つ者として社員を指導する際には自分なりの接し方を重んじ、一方的な指示を出すのではなく社員と同じ目線に立って話をする心を心掛けたという。そうすることで、社員一人ひとりの特徴に合わせた指導ができるようになり、円滑なコミュニケーションをとる力が養われたそう。また、トーカロではモノづくりそのものから品質管理、他部門間での調整など、幅広い業務に携わることが多い。知識を吸収し学びを深める過程で一点からしか見えていなかった事柄を多角的に見えるようになる瞬間にも成長を感じていると語る。

「仕事は面白い。死ぬ瞬間まで個人として成長を続けたい。そしてそれが企業の成長に繋がれば」。そう語り、更なる挑戦を続けんとする檜山さんの姿は、活力に満ち溢れていた。

トーカロ株式会社

所在地 〒658-0013 兵庫県神戸市深江北町四丁目13番4号

事業内容 弊社は様々な表面改質技術を展開しています。主に溶射という技術を用い、取引先のニーズに合わせた問題解決法を提案し、あらゆる業種・業界にトーカロ独自のソリューションを提供しています。

創業年 1951年7月1日

資本金 26億5,882万円

従業員数 517名

●神戸大学生へのメッセージ

弊社は神戸に本社を置き、地元への貢献はもちろん、日本全国、世界各地のモノ造りの技術を表面改質技術のパイオニアとして支え発展させることが出来る企業です。将来、メーカーの技術者を希望される方は是非一度、弊社の説明会に足を運んでいただきたいと思います。

●ポイントPR

弊社の仕事内容は技術的要素の幅が広く営業も製造も研究開発も全てが技術職となります。どの部署でも自社の技術はもちろん、メーカーである取引先の技術も広く深く知っておく必要があり、それを日々学ぶことが出来る環境が社内には備わっております。



ホームページはコチラ! ▶ <http://www.tocalo.co.jp/>

【執筆者/法学部 高橋 篤史】



日工株式会社

技術部部长 名取 正夫さん

大正8年に明石で創業してから、実に96年の歴史を持つ日工株式会社。今では、アスファルトプラント国内70%、高速道路用にしたっては90%以上のシェアを保有。企画・設計から施工まで一貫生産を行うプラント機器メーカーだ。同社の技術部部長の名取さんにお話を伺った。

日工株式会社の社風は、「堅実な経営」と「アットホームな雰囲気」と、きっぱりと述べられた。この2点の社風を根底から支えているのは、経営理念にもある”お客様第一主義”の浸透である、とお話を伺う中で強く実感した。発注を受けるとお客様の工場に合わせて機械の細部をカスタマイズし、また施工が終わってからも工場1つ1つにサービスマンをつけてアフターケアを行っている。急な故障のときなどはカスタマーサービスに電話をすればお客様と同じ操作盤を見ながら遠隔からでも解決できるようにしている。名取さんによると、「弊社の長い歴史の中で、扱う商品は変わってきたが、お客様を第一に思い、品質の高い製品を作り提供する堅実な経営スタイルは変わらない」のだそうだ。

そして、このお客様一人ひとりを大事にする経営スタイルは、社員に対しても当てはまるように思う。社員一人ひとりが働きやすい環境を作り出す工夫が多く施されているのだ。忘年会は若手が幹事を務めることや、デスク間の壁を取り払ったオフィスを作ることで、上司にも話しかけやすい雰囲気になっている。現場での作業は、真夏は暑く冬は寒い、油や埃みみれで、プラントから出てきてメガネを外すと目だけが白いう泥臭く厳しい面もある。しかし、自分で設計した製品は自分で確かめるという現場を大事にする風土があり、皆明るく働かれているそうだ。その結果、アットホームな雰囲気を作り出しており、それは離職率が1桁という数字にも体现されている。

私が同社取材する中で感じたのは、お客様や社員に対して、一人ひとりのことをしっかり考えているということである。そして、これが社風として根付き、堅実で雰囲気の良い職場を生み出していると感じた。ここに同社の強みが表れているのだろう。

「常にお客様第一」を根底に堅実でアットホームな風土であり続ける

取材テーマ



Message from OB/OG

先輩からのメッセージ

取材テーマ：仕事のやりがい



岩崎 研太さん

2015年 海事科学部卒業

日工株式会社
生産管理室

「今後の可能性を広げるために、私を一番大変な部署に配属してください。」

岩崎さんは2015年入社で、海事科学部マリンエンジニアリング科の出身である。そして現在は日工株式会社の生産管理室に勤めている。生産管理室は、技術部と現場を繋ぎ、すべての情報を収集して生産計画をアウトプットする部署だ。少数精鋭であり、ミスの許されない精神的にもつらく大変な部署の一つである。「人間の体で言う脳ですね」と岩崎さんは語る。

そんな岩崎さんに、今の仕事で一番大変なことを伺った。それはやはり人間関係だという。今は生産管理室の新人として、主に現場に赴き調整係を行っている。多い日には1日に30人近くの現場を動かす方と会ったり電話を掛けたりして、仕事ををお願いすることになる。しかし、現場の方は皆大先輩であり、中には職人気質の方もいる。アウトプットした生産計画がスケジュール的に多少無理のあるものである場合にでも、納期までに仕上げてもらえるように、出来る限り足を使って仕事をし、自分たちも一緒に仕事を頑張っているのだということを知ってもらえるようにするそうだ。

今の仕事のやりがいを尋ねると、「やっぱり評価してもらえた時が一番やりがいを感じます」と答えてくださった。アウトプットしたものが完成する時はもちろんだが、それ以上にその計画を行う中で、実際に現場の方に評価してもらえた時が嬉しいという。

今後の目標は、多くの現場で経験を積んだ後、海外でも自分を磨き、30歳までに多くのスキルを身に付けたいそうだ。そして、再度今の部署で仕事を大きくステップアップさせたいとのこと。また、上司の言葉も岩崎さんを突き動かす原動力となっている。「俺は1人では何もできないが、人を動かすことができたから出世した。」こんな人になりたいと思って仕事をしているそうだ。

私が今回の岩崎さんへの取材を通して感銘を受けたことは、自ら「一番大変な部署に配属してください」と声をあげられたことだ。大変なことを最初に経験すると、あとの仕事やりやすくなり、更に大きな仕事ができるようになったという。生産管理室に配属されたのも、その姿勢があったからだそうだ。私は岩崎さんから、将来のことを考えて自ら困難な仕事にも積極的に取り組む姿勢を学ばせていただいた。

日工株式会社

所在地 〒674-8585 兵庫県明石市大久保町江井島 1013-1

事業内容 アスファルトプラント、コンクリートプラント、土壌浄化プラント、環境関連プラント、搬送関連製品の製造・販売

創業年 1919年8月13日

資本金 91億9,760万円

従業員数 800名



●神戸大学生へのメッセージ

皆さんが毎日歩く道路に敷かれた「アスファルト」住んでいる建物に使われている「コンクリート」。当社は豊かな生活に欠かせないインフラ整備に必要な、それらを生成するプラントや環境関連製品を製造している『機械メーカー』です。1919年設立以降蓄積した〔技術〕〔安定した資本基盤〕〔業界TOP〕が自慢です。

●ポイントPR

職場の雰囲気はアットホーム、先輩が後輩の面倒をみる伝統があります。平均勤続年数は20年以上、上場企業の中でも上位です。離職率も低く、安心して長年勤めていただける会社だと自負しています。

ホームページはコチラ! ▶ <http://info.nikko-net.co.jp/> <https://job.mynavi.jp/17/pc/search/corp52537/outline.html>

〔執筆者/経済学部 濱口 彰浩〕



古野電気株式会社

技術研究所 研究部 ハードウェア・システム技術研究室
室長 岡田 勉さん

皆さんは海事科学部の練習船、「深江丸」をご存知だろうか。教養原論の授業にも使われているので、海事科学部以外の学生でも知っている方は多いはず。深江丸の航海機器の製造者一覧には、「古野電気」の名がずらりと並ぶ。GPSコンパス、レーダー、無線送受信機など、その製品群は航海の必需品ばかりだ。

古野電気は多くの「日本初・世界初」を生み出してきた、船舶用電子機器の総合メーカーだ。その技術力は折り紙付き。今回の取材に応じてくれたハードウェア・システム技術研究室長で、ご自身も神戸大学工学研究科OBである岡田さんも、自社の技術力は「世界でもトップレベル」と話す。その強みは「種々の船に向けてトータルでシステムを提供する」ところにあるという。どんな船にも対応できる製品があり、そして船に必要な機器を一通り網羅している会社は世界でも数えるぐらいしかない。そこが業界のトップランナーたる所以だ。ここまで書くと「船舶の会社」というイメージを強く持っただろうが、古野電気の真髄はその先にある。

会社の経営理念の一つに『会社存立の原点は社会の役に立つことである』とあるように、その技術力は船舶だけにとどまらない。今や会社の事業範囲は気象レーダーや医療用機器にまで及ぶ。岡田さんも「得意としている技術を駆使して応用先を広げ、新しい価値として提供していく」と話す。その上で技術者は「周りとの協働をいかにしていくか」が大事だという。一人で、または同質の人が集まって考えても新しいモノは生み出せない。「自分とはタイプの違う人と接することで新しいモノができる」。そう語る岡田さん自身、丁寧に相手の話を聴きつつ、技術に対する想いを謙虚に且つ真摯に伝える人だ。技術者の貫禄を見た気がした。

取材途中、会社の製品を手書きで解説した冊子を見せてもらったが、まさに圧巻。技術への想いが詰め込まれていた。ここに掲載できないのが心苦しいほどだが、岡田さんをはじめ、質の高い技術者が高い技術力をもって、古野電気の船旅を支えていることがよく分かる。次はどんな「新しい価値」を見つけてくれるのか楽しみだ。

よりよい製品、より高い技術レベルへ

取材テーマ

技術力

Message from OB/OG

先輩からのメッセージ

取材テーマ：仕事のやりがい



吉田 皓志さん

2010年 工学部卒業

古野電気株式会社
人事総務部 人材開発課

見えないものも伝える。 古野電気の入り口としての使命。

若手社員のやりたいことを重視したい。入社六年目、採用人事担当の吉田さんはそう話す。古野電気は「会社でやりたいこと」を選考中に訊くことが多い。吉田さんも「学生の時に持っている『こういうことをやってみたい』は大事だ」と思っていて、なるべく希望に沿った配属になるよう努力しているという。ご自身も就職活動中は営業と管理に興味があると伝えており、入社一年目から人事担当になった。先輩のフォローを受けつつ、当初からいろいろ任せられて仕事ができそうだった。

若手社員のうちからやってみたい仕事ができる。そこには古野電気の社風が反映されている。社員には話をよく聞いてくれる、家族みたいな温かみのある人が多いそう。そこはさすが家族規模から始まった会社ならではの。吉田さんが就職活動をしていた当時、ここを受けた理由は「近いし交通費もかからない」という単純な理由だった。だが面接を重ねるうちに、会社の雰囲気を感じ、惹かれていったとのこと。「就職活動中はどこの企業も社風がいいというが、ここは実際に来てみてもそう思う」と話す。上司も温かい人が多く、風通しのいい職場だからこそ企画や提案がしやすいそう。実際に、この地元企業特集の掲載も吉田さんが提案したことの一つ。その他、新入社員研修をより「触れる研修」に変更するなど、色々な提案が聞き入れられていると語った。

自分が「古野電気の入り口」だと強く自覚しているという吉田さん。「長く落ち着いて働ける社風で雰囲気もいい」ことを学生にもっと知ってほしいと話す。吉田さん自身、常に改善を意識して仕事に打ち込む一方で、学生時代に組んだバンドを今でも続けている。仕事だけではなく趣味もしっかり楽しむ社員は多いそうで、オンとオフをきっちりつけて働けることがよく分かる。また吉田さんは「あまり会社名や事業内容が女性受けしない」と苦笑しつつも、女性が働きやすい環境だと自信を持って語る。社内のことを間違いなく伝えることができれば、おのずと会社の魅力も伝わる。そうした信念と「古野電気の入り口」として使命感を持ちつつ、充実感たっぷりに仕事を語る姿が印象的だった。

古野電気株式会社

所在地 〒662-8580 兵庫県西宮市芦原町9-52

事業内容 当社は世界で初めて魚群探知機の実用化に成功したメーカーです。現在では東証一部上場、総合船舶用電子機器メーカーとしては世界トップシェアを占めるなど、確固たる地位とブランドを確立するに至っております。

創業年 1951年5月23日

資本金 75億3,400万円

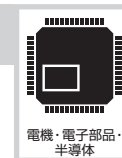
従業員数 (連結) 2,930名

●神戸大学生へのメッセージ

本社は兵庫県西宮市にあり、研究開発及び営業、管理部門などの拠点があります。会社には現在60名を超えるOBOGがおり、そのほとんどが西宮にしながら世界を相手にしたビジネスをして活躍しています！馴染みがない機器を扱っていますが、どれも重要な機械。まずはお気軽に話を聞きにきてください！

●ポイントPR

世界トップシェアの分野があることも当社の強みですが、よく若手社員から「アットホームな社風」と言われるほど働きやすい社風も私たちの強み。またそれは入社3年後平均離職率が約3%、平均勤続年数が約16年という数字にも表れていると考えます。若手OBOGが説明会に伺いますので、お気軽にお越しください！



電機・電子部品・半導体

ホームページはコチラ！ ▶ <http://www.furuno.co.jp/recruit/newgraduate/index.html>



森合精機株式会社

装置事業部
事業部長 若松 郁夫さん

皆さんは「産業用の洗浄機」というものをご存知だろうか。自動車メーカーで世界的に有名なトヨタが生み出した「ジャストインタイム生産方式」。ジャストインタイム生産方式は、生産工程を一つのラインで結び、今やどの会社でも使われているがこの生産ラインには決して欠かせないものがある。それがインライン型の「産業用洗浄機」である。「生産工程ごとに合わせた洗浄機を供給しているのが森合精機の洗浄機の特徴です。」装置事業部事業部長の若松さんはそう語った。

何を隠そう、この森合精機は産業用洗浄機の市場でシェアNo1である。大手の自動車メーカーをはじめとした多くの企業がこの森合精機の洗浄機を採用している。

ではなぜ、森合精機の洗浄機が選ばれているのだろうか。それは「生産ラインの工程ごとに合わせた洗浄機ニーズ」に確かに応えてきたことが要因であるという。また、森合精機では水分や乾燥度を計測する測定装置や残留物の測定器も作っている。そこには洗浄するだけでなく、その効果まできちんと一貫して責任を持つ姿勢が伺える。「残留物の測定器に関して結果自体はどこの製品でも同じだが、測定値が良くなかった時に

それを改善出来るのは洗浄機を取り扱っている森合精機ならではの」若松さんは自社の強みをそう語った。

森合精機はもともと油圧機器を主に販売するメーカーであった。その油圧機器を製造するラインにあわせた洗浄機を作り、販売し始めたのが洗浄機事業の始まりだそうだ。どうしてそのような事業展開が可能だったのだろうか。そのひとつの鍵は、「年に一つは必ず新商品を作る」という開発部隊の目標にある。常に市場の変化を捉え、お客様のニーズに合わせる姿勢が新たな商品や事業を生みだしているのではないかと感じた。

企業の製造ラインのニーズに合わせすぎた結果、洗浄機が多岐に渡り、利益につながりにくいという課題もある。「この課題を克服するために工場勤務の社員も売上高や利益率を意識する必要がある」と語る若松さん。「人が財産であると考えています。ただし会社が良くならないと人は育たない。」

洗浄機という市場で多くのニーズに応えてきた森合精機が次に仕掛ける一手は何か。次にそこに携わるのはあなたかもしれない。

ニーズを捉える次なる一手

取材テーマ

成長性

Message from OB/OC

先輩からのメッセージ

取材テーマ：仕事のやりがい



雪島 良太さん

2015年 工学部卒業

森合精機株式会社
装置事業部

技術者としての「こだわり」と仕事に打ち込める「環境」

お話を伺った雪島さんは2015年に工学部を卒業し、まだ入社一年目である。しかしながらその目には仕事への確かな充実感と技術者としての誇りを感じた。

森合精機への入社を決めたのは「自身の裁量が大きな会社で働きたい」という軸にフィットしたからだそうだ。会社の規模が大きすぎず自分の裁量を発揮できると感じたとのこと。そんな雪島さんは現在、装置事業部で洗浄機の治具設計を担当している。治具とは、洗浄物（ワーク）を保持するための部品で製品の重要な役割を担っているそうだ。

そんな雪島さんに思い切って今の仕事の満足度を伺ってみると「85点」という高い点数が返ってきた。その理由は何よりも「仕事が面白い」と感じられるからだという。また「思っていたより自由に融通が利く環境で仕事をさせてもらっている」と、環境面での満足度も大きな要因とのことだった。自身の就職活動の軸であった裁量について、期待した以上に与えて貰い、むしろ驚いているといった印象を受けた。職場の先輩にもわからないところはすぐに聞けて臨機応変に仕事を進められるそうだ。

今の仕事のやりがいを伺ってみると「2～3件の仕事に集中して納得するまで仕事ができること」という答えが返ってきた。この言葉に技術者ならではの芯を感じた。「自分が納得するものを作りたい」と語る雪島さん。それは「他者の評価ではなくきちんと自分の納得したものを世に送りたい」という確固たる信念があるからだという。そういった仕事に打ち込める環境がやりがいに繋がっているのだろう。

逆に仕事での失敗や不満はあるのだろうか。「仕事に関して失敗を感じたことは無いです。仮に失敗しても、それは全て成功のための必要な失敗と考えているからです。」と力強く語って下さった。プライベートも充実させバランスよく働くことが出来ていて、大きな不満もないとのこと。今後の目標は「開発に携わり、新製品を作りたい」と語って下さった。「あいつに任せたら大丈夫と思われるような技術者になりたい」そんな理想の社会人像、そして技術者としての目標を語る雪島さんの目は、仕事への充実感と今後への野望で満ち溢れていた。

森合精機株式会社

所在地 〒674-0093 明石市二見町南二見10番2

事業内容 工業用洗浄機、油圧機器、減速機のメーカー

創業年 1964年7月16日

資本金 6,500万円

従業員数 210名

●神戸大学生へのメッセージ

神大卒の先輩が活躍している森合精機は、工業用洗浄機で、国内シェアNO1！他社の追随を許しません。国内の全自動車メーカー様を中心に、ご愛顧いただいています。世界を相手に仕事がしたい、地元企業でじっくりとキャリアを積みたいなど、様々な思考の方に働いていただけるフィールドがあります。

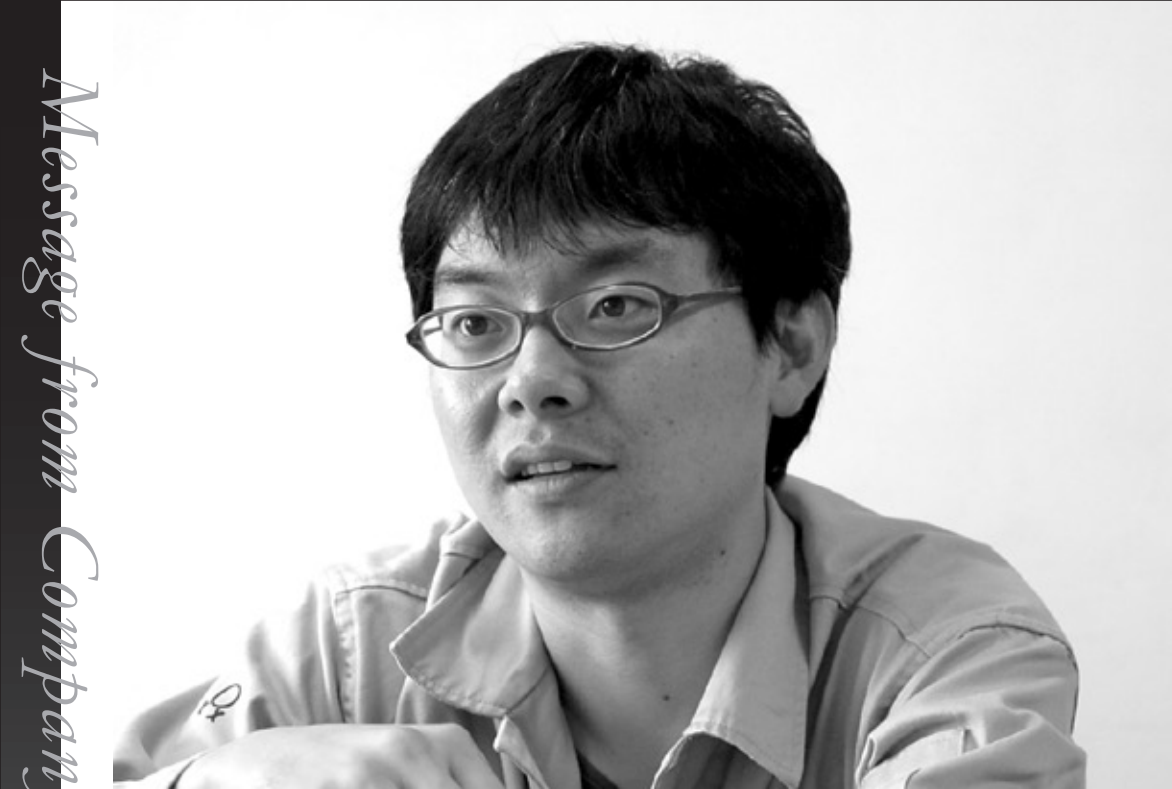
●ポイントPR

森合精機は、50年の歴史がありながら、若手が大活躍しており、平均年齢35.7歳。早ければ30代前半で管理職へ登用されています。前向きネアカの実行集団！プラス思考でとにかくやってみよう！という人間が多く集まっています。あなたもぜひ私たちと一緒に働いてみませんか？



ホームページはコチラ！ ▶ <http://www.morigoseiki.co.jp>

【執筆者/工学研究科 小松 剛士】



大和工業株式会社

大和軌道製造株式会社 技術部 設計課
主事 チームリーダー 巖 祐貴さん

—鉄で拓く豊かな未来— 大和工業グループは「鉄」を中心として、建築用鋼材・重工加工品を生産するヤマトスチール株式会社、鉄道用分岐器等を生産する大和軌道製造株式会社などの他、アメリカ・タイ・韓国・中東など海外にも複数の拠点を持つ。このグローバルな企業グループ全体を統括するのが、大和工業株式会社である。

今回の取材では、鉄道軌道用品という普段あまり聞き慣れない製品を創業以来70年余り手がけ続ける大和軌道製造株式会社の設計課にてチームリーダーを務める巖（いわお）さんからとても興味深いお話を伺うことができた。まず、「製品の安全基準は100%」が求められるということである。鉄道旅客分野では人々の命を預かっているため、出荷・納品するものに不良品が混入しては軌道製品としては使えない。細かい部品の全て、専用機器等を用いてチェックする。あの長いレール周辺の部品となると想像のつかないくらいの膨大な数となるだろうが、厳しい基準の中でそれら大量の部品の多くを生産する技術があるという事にとても驚いた。

鉄道用分岐器は、主に鉄道会社からの注文を受けて生産する。設置場所の地形や軌道形状は、唯一無二であるため、それを交換するとなると何十年も前の図面を読み解き、新しい代替品を製造するということもあるそうだ。

私たちが生まれた頃から当たり前のように走っている鉄道だが、このお話には歴史やロマンを感じる。指定されたサイズや要求される必要強度など、与えられた条件下での製品化という中にもまた、技術者の難しさや面白さがあるという。

また、技術開発にも積極的に取り組み、地震等による揺れで新幹線の車両が脱線するのを防ぐ『脱線防止ガード』や、従来の部品を交換するだけで部品の幅が調整され、レールの寿命延伸の効果がある『調整式C形ガード』など、その仕組みは画期的である。他に、現在進行中の開発の話もあるそうだ。身近な存在の鉄道であるが、私たちの知らない技術が数多く存在し、その技術で安全な運行を支える会社がある。

巖さん自身も、新幹線や在来線に乗車された際に、自分の関わった軌道用品が車窓から見えることがあるそうだ。ここで自分が試作試験を重ねた仕事がついに目に見える形となり、それが乗客の安全を守っているということ、それは技術者として自分の仕事に誇りを感じる瞬間だろうと私も学生ながらに共感した。



片開き分岐器(在来線用)

製品安全基準100%の必然性と技術開発

取材テーマ

技術力

Message from OB/OG

先輩からのメッセージ

取材テーマ：自分が成長した経験・達成感を得た経験



土江 綾さん

2015年 経営学部卒業

大和工業株式会社
総務部 人事課

自分を高めたいと思える環境

「温かい社員の皆様に応えたい。」そんな気持ちが伝わって来る取材内容だった。「入社して1年目で、まだまだ慣れない仕事が多いなか、周りの方々に助けられながら自身の成長を少しずつ感じています。」と土江さんは、丁寧な口調で語って下さった。

総務部人事課に所属されている土江さんの具体的な仕事内容は、日本国内で500名を超える社員の給与を計算する事だ。毎月様々に変わる社員の事情(異動、家族状況や住所の変更など)をきちんと把握し、各種の手当や保険・税金の取扱に適切に反映させ、公平公正な給与支払を継続する必要がある。給与は社員の生活に不可欠な物である為、土江さんが日々感じている責任の重さが伝わってきた。学生から社会人になって苦労したことは、スケジュール管理や仕事のミスの防止・効率化に関することだそう。そこでの失敗があり、成長することが出来たのだとおっしゃっていた。また、「正確さが求められる業務が多いですが、先輩方のご指導のおかげで次第にできるようになってきました」と周囲への感謝の気持ちを述べられていた。

少し意外なことかもしれないが、大学時代の勉強が生きていると感じることもあるそうだ。例えば自身が学生時代、経営学部であったことから大学での学習が直接仕事に結びつき、会社の組織構造の把握や人件費等への理解が進むなど様々あるそうだ。私は話を聞いていく中で、広い視野を持ってしっかりと勉学に励むことで座学における知識だけでなく、それら知識の活用方法など考え方の面においても、仕事で実践的なものになるのかもしれないと感じた。

仕事に打ち込む中で学生時代とはまた別の考え方が出来るようになってきたとも土江さんは考えている。これまではある課題に対して自分だけで物事を考え、結論を出すことも多かったが、社会人となり、会社での自身の役割や責任を考えると他部署も含めた連携の大切さが身に染みて分かるようになったという。社員一人一人と関わる人事という仕事の中で様々な部署との関わりから社会の広がりや社員の優しさを感じ、「それが今度は自分がその中の一員として皆の役に立ちたいという気持ちに繋がり、自身を成長させるための源になっています。」そう語る土江さんの雰囲気からも、ここ大和工業が社員の成長を助け、見守る温かい社風であることが伺えた。今後、もっと成長して人事として様々な業務に携わり、頑張っていきたいという仕事への意欲が溢れていた。

大和工業株式会社

所在地 〒671-1192 兵庫県姫路市大津区吉美380番地

事業内容 電気炉により、屑鉄から鉄を再生する製鋼事業。鋳片を圧延し、建設用鋼材等を製造する圧延事業。鋳鋼・機械加工・製缶により、船尾骨材を製造する重工事業。鉄道用分岐器等を製作する軌道用品事業。

創業年 1944年11月8日

資本金 79億9,600万円

従業員数 1,771名

●神戸大学生へのメッセージ

若手であっても意欲や実力があれば早くから海外を経験させ、将来的には当社のコア人材として活躍して頂きたいと考えています。働き甲斐のある誠実な企業集団の一員として会社とともに自分自身を成長させてみませんか。国際派の貴方をお待ちしています。

●ポイントPR

東証一部上場の大和工業(株)を中核とする、鉄鋼・軌道用品事業グループです。フェアとグローバルをモットーに電炉鉄鋼メーカーとしてはいち早く海外展開に取り組みました。国内で培ってきたノウハウ・技術力を以て、アメリカ・タイ・韓国をはじめ、近年では中東へ進出し、今後も海外展開に力を入れていきます。



ホームページはコチラ! ▶ <http://www.recruit-ykc-group.jp/>

[執筆者/工学部 上西 宏治]

Handwriting practice lines on the left page. The page contains 20 horizontal dotted lines for writing. A faint, light gray illustration of a cat's head is positioned in the middle-left area, facing right. The cat has a white patch on its forehead and a small tuft of hair on top. Below the cat's head, there are three short, curved lines suggesting motion or a shadow.

Handwriting practice lines on the right page. The page contains 20 horizontal dotted lines for writing. A faint, light gray illustration of a cat's head is positioned in the middle-left area, facing right. The cat has a white patch on its forehead and a small tuft of hair on top. Below the cat's head, there are three short, curved lines suggesting motion or a shadow.